



すばらしい資源、活用を。 ライフスタイルを発信したい

自ら陸別を楽しむことが 町の活性化につながる

移動オフィスのキャンピングカー・愛称「akivan」で自由に仕事に取り組む秋庭さん



秋庭智也さん
☎090・1731・3389

秋庭さんと言えば「無暖房生活」も話題に。趣味の登山訓練の一環として2009年ごろから東京で始め、陸別では冬6シーズンを通じた。インナーウェアなどの製造販売会社「株式会社（株）アズ」(大阪)の防寒肌着のPRなどにも関わり、陸別の寒さを全国に発信している。

今後は、アウトドア商品の企画も手掛けたいそう。「あるものを活用することが大切。ないものを探すがちだが、陸別はすばらしい資源がたくさんあるのだから」。

東京で生まれ、英国ロンドン大学で開発学(途上国支援)を学んだ。IT企業勤務を経て、アジアの女性などを支援するNGOに所属。途上でフェアトレード(公平貿易)推進の事業などを担当した。

経験を糧に地方を活性化化する仕事を目指し、母親の出身地で「大好きな場所」という陸別を選んだ。「地域の声を拾い、観光土産になるものを作りたい」。思いを胸に移住した2012年から、特産品を次々とプロデュース。町内産のエンジカ肉を使った「シカ肉ジャーキー」を皮ぎりに、フェアトレードの原料を使った「まちチョコ」など、その数約15種に及ぶ。

キャンピングカーのオフィスで移動し、開発やPRに関わった寒冷地向けの肌着を着る元町地域ブランド開発推進専門員の秋庭智也さん(46)。「自然の変化をダイレクトに感じる陸別で、ライフスタイルを発信したい」と意気込む。



SNSの他、小利別の写真を使ったポストカードも製作。「ここで得たことを発信するのは町への恩返し」と話す

「辛さも楽しさに変えるのがモットー」といつも前向きな坂井さん



Cafe & つつわ tomonono
陸別町小利別本通東1-9-1
☎080-5581-1155
営:8時15分~20時
休:日・月・火曜

「特に小利別が好き」と話す。寒さを含めた自然はもちろん、居住10人に満たない界限は人の温もりが心地よく、北見や置戸など、外の人のふれあいも魅力だとか。10年前からは、小利別の風景や日常に「言葉添え、ブログやSNSで発信。「町を元気にしたい。自ら陸別を楽しむことが、町の活性化につながるとうれしい」。日本一寒い町で熱く語る姿は、エネルギーにあふれる。

新潟県出身。新潟大学教育学部で書道を学んで大学院に進学したが、芸術と日常の食卓を結びつける「陶芸」に引かれ、カフェ経営と合わせて生業にしようと中退。独学で陶芸の腕を磨いたのち2002年、陸別に移住した。

ここを選んだのは、「自分を持てる場所」だから。個性が埋もれがちな都会と違い、創作活動や生活にオリジナルを追求できる魅力を感じたという。現在は陶芸や書道教室を主宰する傍ら、2013年に開いた念願のカフェを切り盛り。地元食材を使った食事やスイーツを、店舗横の陶窯で焼いた器に盛りつけて提供している。

「久しぶりー、元気だった?」。太陽のような笑顔で来店客を迎える。家に帰ってきたような幸せな空気を作り出しているのが、店主で陶芸家でもある坂井友子さん(44)だ。

新潟県出身。新潟大学教育学部で書道を学んで大学院に進学したが、芸術と日常の食卓を結びつける「陶芸」に引かれ、カフェ経営と合わせて生業にしようと中退。独学で陶芸の腕を磨いたのち2002年、陸別に移住した。



開発に関わった陸別町の特産品。ブランド化のためパッケージデザインにもこだわった



現在は町地域ブランドプロデューサーなど複数の顔を持ち、特産品のPRや企業支援などを行う



お手製の器に盛り付けた「陸別産鹿肉ジンギスカンプレート」1,000円。器と地元食材を使った料理が互いを引き立てる。器は店内で展示・販売も。

